

## 旅行情報誌から読み解く外国と日本の比較

宮城県仙台二華高校	○遠藤 真寿
宮城県仙台二華高校	○長田 美桜
東北大学工学部 学生会員	安西 聡
宮城県仙台二華高校	馬場 裕樹
東北大学大学院工学研究科 正会員	風間 聡

### 1. 背景と目的

近年、河川周辺において、ごみの不法投棄<sup>1)</sup>が問題である。このような問題は川の関心の向上により、解決できる<sup>2)</sup>。日本の川は他の自然情景と比べて関心が低い。それは、海の日や山の日はあるのに川の日はないことや川は活動よりも諸問題の方が顕著であること等に現れている。一方、海外では、自然に向けられる意識のうち、川に向けられる意識の割合が日本より大きい傾向にある。Google Trend<sup>3)</sup>における、川と山、海の日本の検索回数結果として、川は山と海と比較が少ない。一方、全世界ではriverがmountainやseaより検索回数が多いことからいえる。本研究において、日本と海外の自然環境の活用法を比較した。また、日本人の川の環境に対する意識を変えることにつながる。河川の人気向上のためのモデルプランを作成する。

### 2. 調査方法

#### (1)対象とした国

購買力平価GDPや地理的条件(海岸線の長さ÷国土面積)、年間降水量において、日本と条件の近い国を対象とした。韓国やクロアチア、スリランカ、イギリス、カナダ、スペイン、ニュージーランド、台湾の計8カ国を対象にした。

#### (2)旅行情報誌による分析

2016年度と2017年度、2018年度版の旅行情報誌るるぶ<sup>4)</sup>8冊を使用し、川と山、海の観光地の記事面積を比較した。記事の内容についてまとめるため、各記事の記事面積が大きい順に1位から3位まで自然情景とレジャー、施設、文化、イベント、土木構造物の6種類に割り当てた。記事の内容の比較を行うため、1位を3点、2位を2点、3位を1点とした。

これらの点数を記事面積と掛け合わせ重みづけしたグラフを作成し、それらを海・山・川で比較した。また、その結果を佐藤ら<sup>5)</sup>の既往研究と比較した。さらに、川におけるレジャーを急流での川下り、観光船、釣り、その他の4種類に分類した。急流での川下りは写真において、水しぶきが写り、スリリング、荒瀬等の表現のある記事を分類した。観光船は川下りのうち、景色を眺めることを目的とした記事を分類した。

### 3. 分析結果と考察

図1において、川と山、海の観光地の記事面積の割合をまとめた。ニュージーランドやスペイン、カナダ、イギリス、クロアチアにおいて、日本より川の記事面積の割合が大きい。これら5カ国において、日本より川の人気が高いと考えられる。以上より、日本の川の人気向上のため、ニュージーランドやスペイン、カナダ、クロアチアの記事を詳細に分析した。山と海の記事が著しく少なく、川と人気の比較をできないイギリスを除いた。

図2は、るるぶの観光地の取り上げ方の割合をまとめた。図2において、川における日本のイベントの割合は他の国より大きい。日本において、花見や花火、雪祭りなど四季を生かしたイベントが多い。日本には四季があり、2017年の気温の変動係数は0.50である。また、2017年のクロアチアの気温の変動係数は0.64であり、カナダの気温の変動係数は1.63であり、スペインの気温の変動係数は0.49である<sup>6)</sup>。よって、日本と同様にクロアチアやカナダ、スペインも四季があると考えられる。一方、これら諸外国のイベントの記事は小さい。これら諸外国は通年楽しめる観光地により、川の人気が高い。

キーワード：親水事業、るるぶ、異文化比較、内容分析

仙台二華高等学校 宮城県仙台市若林区連坊1丁目4番1号 0222968101

川に関する記事は主に自然情景とレジャーが占めていた。そこで、レジャーについて詳細な分析を試みた。図3において、レジャーに分類された記事をさらに川下り、観光船、釣り、その他の4項目に分類し、その割合をまとめた。結果として、日本はニュージーランドやスペイン、カナダ、クロアチアの4カ国に比べて急流を利用した川下りの割合大きい。また、スペインは日本より、観光船の割合が大きい。日本よりも川の人気的大幅に高いカナダやクロアチアにおいてその他の割合は大きい。その他には船を利用せず、川で水遊びをする活動が多く含んだ。よって、川での水遊びは船を利用した活動より、手軽で親しみやすく、活動を行いやすいと考えられる。

### 5. まとめ

本研究から以下の結論を得た

- 1) ニュージーランドやスペイン、カナダ、クロアチアは日本より、川への関心が高い。
- 2) スペインやニュージーランド、クロアチアは四季があると考えられるにも関わらず、日本よりイベントの割合が少ない
- 3) 日本よりも川の人気的大幅に高いカナダやクロアチアにおいてレジャーの内のその他の割合は大きい。その他には船を使用しない水遊び等を含んだ。水遊び等を活発にさせることにより、川の人気を上昇させられることが示唆された。

今後の展望として、レジャーの内訳において、その他に分類に対し、より詳しく分ける必要性を感じた。より詳細な分析を今後行う。

### 謝辞

本研究は本校指定の SGH プログラムの支援により実施された。また、本研究を作成するにあたり多くの先生方から丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。ここに感謝の意を表します。

### 参考文献

- 1) 奈良新聞 2017：“天川村、バーベキュー禁止-公共の場所、条例制定”，奈良新聞，2017/9/15，<http://www.nara-np.co.jp/20170915090818.html>，(参照：2017/9/23)
- 2) 川瀬功記：河川協力団体におけるミズベリングの活動を通じた河川環境教育・水環境意識の啓発について，水環境学会誌，Vol.40(A) No.8, 2017
- 3) Google 「Google トレンド」：<https://trends.google.co.jp/>

[trends/?geo=JP](https://trends.google.co.jp/)(参照：2019/01/25)

4) 旅行情報誌“るるぶ”：16~18 年度版 56 冊

5) 佐藤理久，青沼ひかる，安西聡，末永夏子，橋本彩子，小金聡，風間聡：河川の関心の向上と親水の活性化への方策

6) 気象庁 「気象庁ホームページ」（日本語）

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/dailyview/index.php>(参照：2019/01/25)

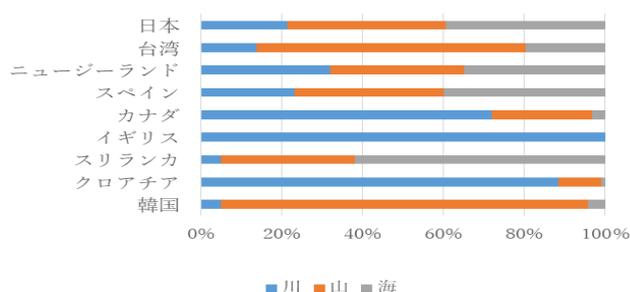


図1：各国の川と山、海の記事面積の割合

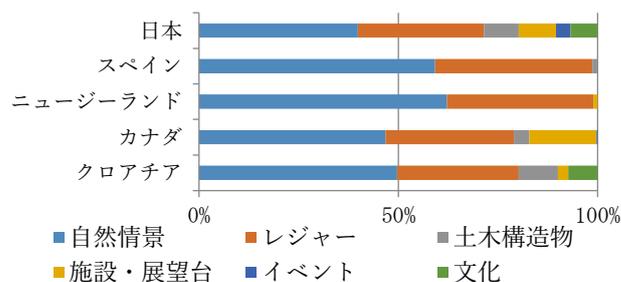


図2：旅行情報誌による川の取り上げ方の点数

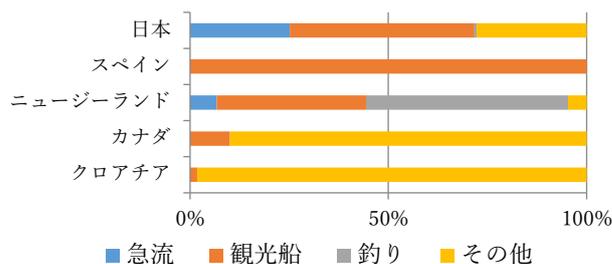


図3：レジャーの内訳